資料５

肉用牛経営関係ヒアリング御協力者の概要

株式会社 野元牧場　取締役会長　野元勝博（のもとかつひろ）

・所在地　　長崎県壱岐市
・設立年　　2012 年 1 月
・労働人数　　計 17 人（うち従業員 11 人）
・飼養頭数　　931 頭（うち繁殖雌牛 286 頭、子牛・育成牛 215 頭、
　　和牛肥育 430 頭）
・出荷頭数　　457 頭/年（うち和牛肥育 223 頭、和牛経産牛肥育 110 頭、和子牛 124 頭）
・ICT 機器の活用　有（分娩監視カメラ 7 台、くろくまくん（牛群管理システム））
・外部支援組織等の活用　有　（エヌプロ株式会社（コントラクター））
・経営面積　　（ｈａ）

麦稈	稲わら	稲 WCS	ソルゴー等（夏作）	ｲﾀﾘｱﾝﾗｲｸﾞﾗｽ（冬作）
23	30	10	26	27

（トン）

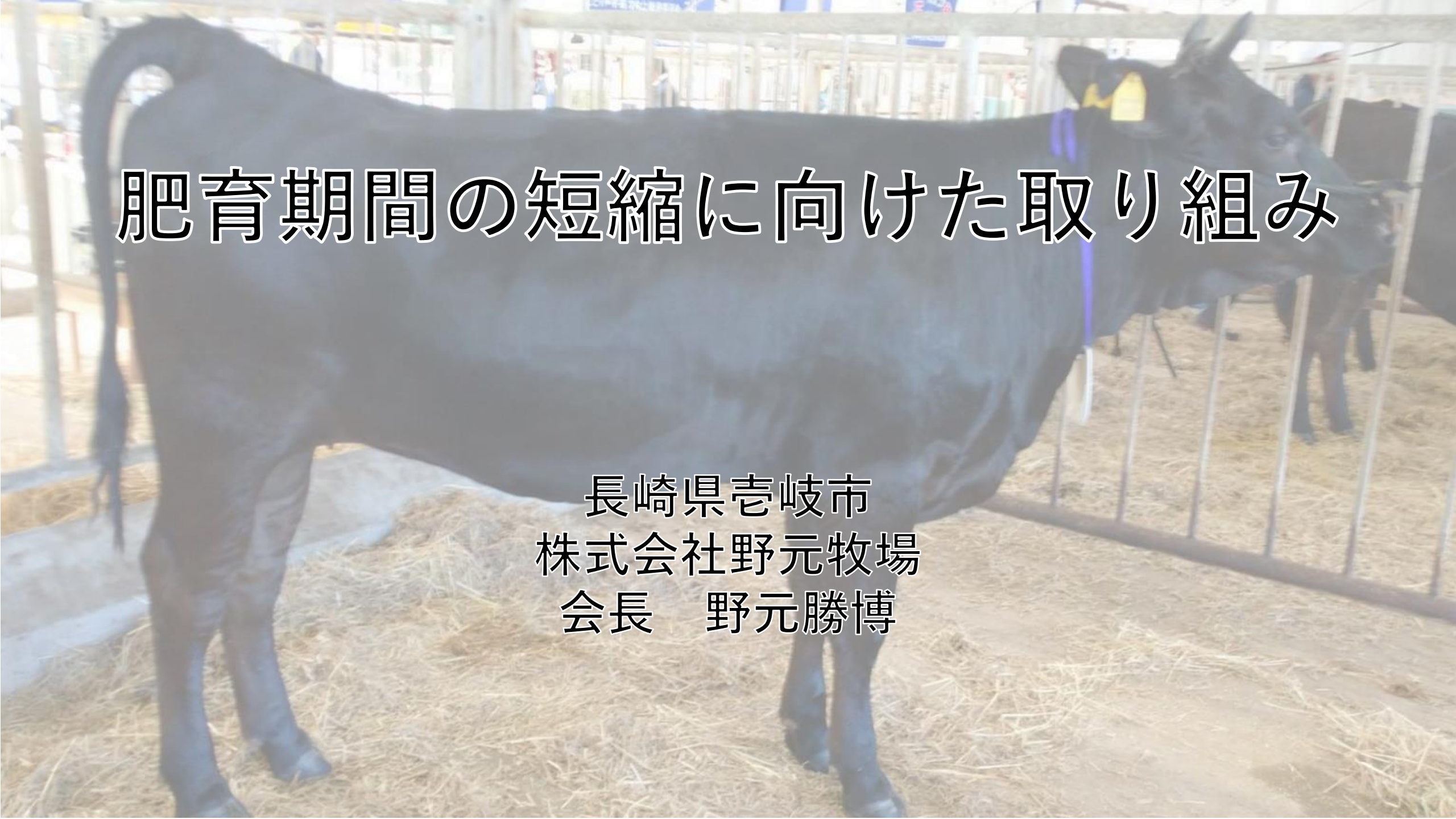
年間給餌量の内訳		粗飼料	濃厚飼料
自給飼料	稲 WCS	225	－
	他飼料作物	600	－
	耕畜連携（稲わら・麦稈）	556	－
購入飼料	発酵飼料(SGS・廃菌床・ﾋﾞｰﾙ粕)	－	495
	配合飼料・人工乳・代用乳	－	1200

・経営の特色等

飼料高騰・素牛高騰により繁殖基盤の拡充に取り組んできた。併せて、以前より計画していた経産牛肥育に取り組み、発酵飼料の経産肥育・肥育前期の飼料として定着してきた。粗飼料も現在端境期を迎えているが、エヌプロの取組みにより販売できる体制までにしていきたい。

・その他

平成 29 年度 日本農業賞個別経営の部優秀賞
第 11 回全国和牛能力共進会総合評価群肉牛の部第 2 位　特別賞受賞
令和元年 6 月　野元牧場 箱崎支場(黒毛和牛経産肥育) 農場 HACCP 認証
壱岐市農業協同組合理事・全国肉牛事業協同組合理事・長崎県農業法人協会監事
壱岐市家畜人工授精師会会長



肥育期間の短縮に向けた取り組み

長崎県壱岐市
株式会社野元牧場
会長　野元勝博

自己紹介

名　　前　　野元勝博

年　　齢　　６４歳（昭和３５年２月２７日生）

現在の役職　　株式会社野元牧場　取締役会長
エヌプロ株式会社　代表取締役
全国肉牛事業協同組合　理事
壱岐市農業協同組合　理事
（一社）長崎県農業法人協会　監事

経　　歴　　昭和５５年　壱岐郡農協に家畜人工授精師として就職
平成　７年　肥育牛舎を整備して肥育経営を開始
平成１２年　壱岐郡農協を退職して専業農家（繁殖経営）となる
平成２４年　株式会社野元牧場設立　代表取締役に就任
令和　５年　エヌプロ株式会社設立　代表取締役に就任

（株）野元牧場の概要

代　　表：野元久志

設　　立：平成２４年１月

従業員数：役員４名（うち女性１名）、社員１１名（うち女性４名）、管理委託２名

経営規模：繁殖雌牛３００頭、肥育牛３６４頭、
経産肥育牛７５頭、子牛２１３頭

販売頭数：子牛１５０頭程度、肥育牛２２０頭程度、
経産肥育牛１３０頭程度

飼料作付面積：夏作２６ｈａ、冬作２７ｈａ
イネＷＣＳ　１０ｈａ
稲わら収集３０ｈａ
麦わら収集２３ｈａ

肥育期間の短縮に取り組んだ経緯

きっかけ

〇飼料価格の高騰（平成２０年ごろ）

〇子牛価格の高騰（平成２４年以降）

→繁殖牛を導入し、一貫経営を行うことで生産費の低減を図った。

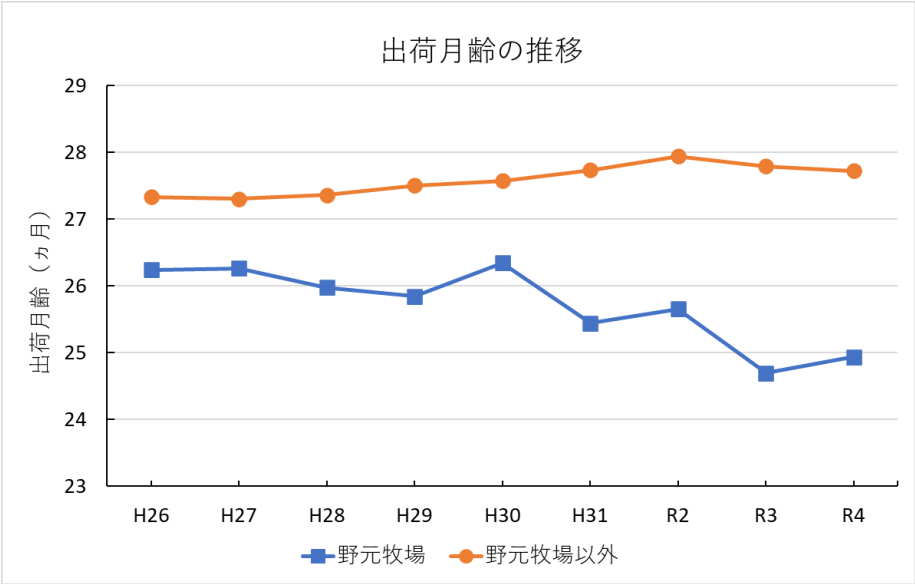
〇自家産の子牛は、市場導入の子牛に比べて出荷が早い

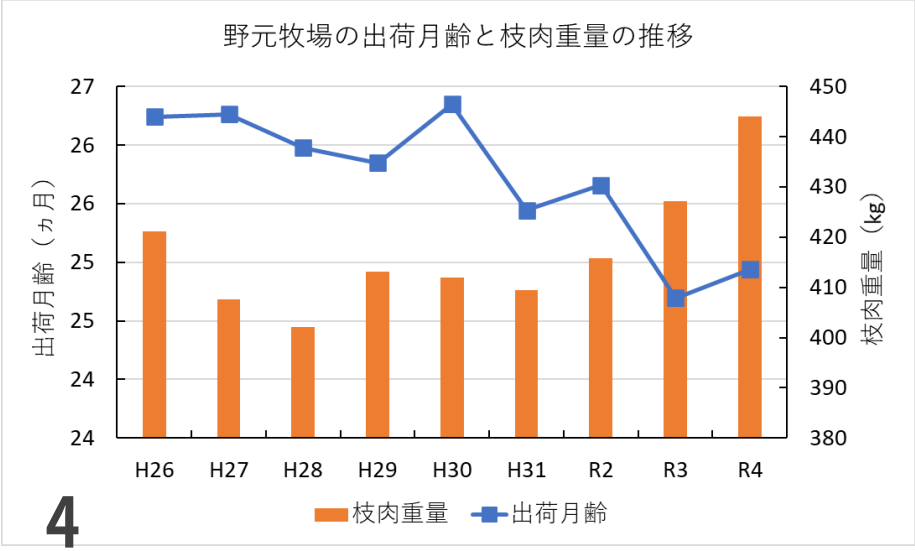
→子牛が小さいころから、腹づくりを行うことで、６ヵ月程度で肥育に移行可能

→徐々に繁殖牛の頭数を増やすことで出荷月齢を早めた。

※市場導入の子牛は見た目をよくするために濃厚飼料を多給していることが多く、肥育前期の粗飼料の食い込みが自家産に劣る。

（株）野元牧場の肥育について





- 壱岐地域の他の肥育農家と比較して、出荷月齢が早い。
- 繁殖・肥育一貫経営により、肥育に向いた子牛を作り６か月齢程度で肥育を開始することで、肥育期間を短縮。
- 令和３年以降は自家産子牛の割合が増えたことで肥育期間がさらに短縮。
- 肥育期間は短縮しているが、枝肉重量は増加傾向

メリット

- 起立不能や死亡などの事故頭数が減少
- 飼料コストが低減

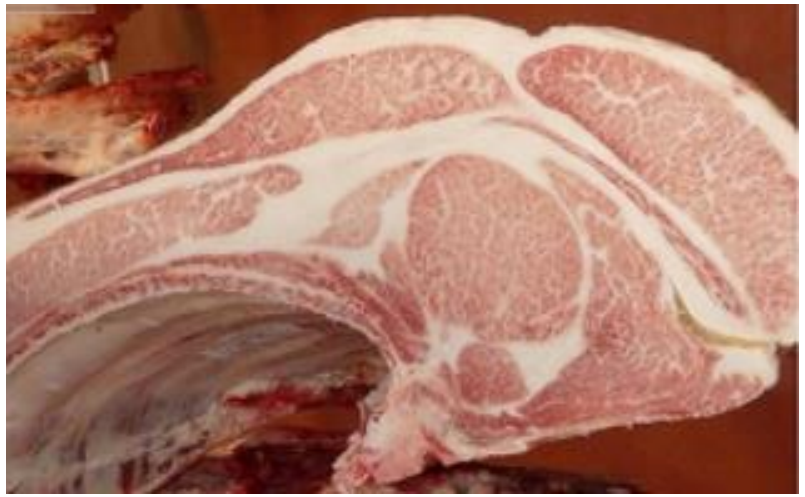
残された課題

- 雌の枝肉重量が小さい
- 流通業者から２６カ月まで肥育してほしいとの声がある

（株）野元牧場の肥育について

〇肥育牛１頭当たりの配合飼料コスト（育成費用、粗飼料含まず）

- 壱岐地域の平均（約２７か月齢出荷）の場合
  約４７５，０００円
- 平成３０年以前の野元牧場の平均（２６ヵ月齢出荷）の場合
  約４４５，０００円
- 令和元年～２年の野元牧場の平均（２５ヵ月齢出荷）の場合
  約４１８，０００円
- 令和３年～４年の野元牧場の平均（２４か月齢出荷）の場合
  約３９３，０００円



飼料費の低減のための取り組み

〇エコフィードの利用

・経産牛肥育へのキノコ廃菌床混合飼料の給与
→飼料価格：５６円/kg（これまでの配合飼料：９５円/kg）
→安価で肉のうまみを向上させることが可能
→付加価値をつけてブランド化も検討

・肥育牛（前期）へのビール粕混合飼料給与
→飼料価格：２６円/kg（これまでの飼料：９５円/kg）
→肉の歩留が改善する傾向あり

〇今後の取り組み

・肥育牛（前期）へのトウモロコシサイレージ給与
→飼料用トウモロコシを自社で生産開始予定

・肥育牛（前期）へのキノコ廃菌床混合飼料給与

農場HACCPの取り組み

〇農場HACCPに取り組んだきっかけ

・牛舎内の整頓ができておらず、牛の事故率も高かったため、
令和元年に農場HACCP認証を取得

〇農場HACCP認証による効果

・牛舎内の整頓ができ、牛の事故率が減少

・従業員の飼養衛生管理に対する意識が高まった

〇今後の取り組み

・現在、農場HACCP認証を受けた牛舎では、経産牛肥育に取組中

・経産牛に付加価値を付けた販売が可能となることからブランド化を検討中

・農場HACCP認証農場は現在、長崎県内では当社のみであるため、県内へ普及できるよう取り組む

エヌプロ（株）の概要

代　　表：野元勝博

設　　立：令和５年５月

従業員数：役員３名、社員２名

経営内容：飼料作物栽培にかかる一連の作業、稲刈り、削蹄、
畦畔除草、堆肥の運搬・散布の受託
飼料作物の生産・販売、牛や飼料の運搬

法人設立の目的

・地域の農地の担い手として作業受託に取り組む

・（株）野元牧場のさらなる規模拡大を図る

エヌプロ（株）の取り組み

〇作業受託の実施

→壱岐地域では特に小規模兼業農家が多く、
労働力不足が深刻化し、離農する離農する農家が増加

→壱岐地域の農業の持続性を確保するため、
農家のニーズに合った農作業受託を実施

→自給粗飼料の生産・販売、飼料作物栽培作業の受託
牛の削蹄、畦畔や河川の除草作業、稲刈りの受託

エヌプロ（株）の今後について

〇作業受託面積の拡大

→肉用牛経営では規模拡大が進んでおり、飼料作物栽培に向ける労力が不足

→小規模兼業農家、高齢農家だけでなく、肉用牛農家からも積極的に作業を受託して規模拡大を支援

〇自給飼料の生産拡大

→特に「飼料用トウモロコシ」を増産予定

→濃厚飼料の給与量を減らして、飼料費の削減を目指す

〇担い手の育成

→島外からの雇用を積極的に行い、地域農業の担い手を育成

ご清聴ありがとうございました。